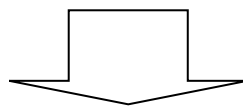


	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 漢字を正しく丁寧に書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、互いの感じたことや考えたことを交流する時間を設けることで、他者の感じ方や違いやよさに気付くことができるようにする。 漢字ドリルを活用し、宿題や小テストの実施後の直しを着実に行うようにする。また、文や文章を書くときは、今まで習った漢字を正しくていねいに文章の中で使えるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 学校のまわりの様子について、地形や土地の利用、交通の広がり、公共施設の場所と働きなどについて観察したり地図や資料を調べたりして、身近な地域の様子を理解すること。 文京区の様子、地域に見られる仕事について、調べ、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実際の写真や動画などの資料を準備することで、学習意欲を高め、自ら学ぶ姿を引き出していく。 一人一台のタブレットを活かし、調べ学習を充実させ、調べたことを発表するソフトの利用なども取り入れ、主体的に学べるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算の意味を正しく理解し、発展的な学習の場面において正しく立式すること。 学習したことを日常生活と関連付けて考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算の意味を確認して問題解決させたり、問題場面に戻って確認させたりする。 特に発展的な場面や単元のまとめとなる場面において、算数を身近に感じたり学んだことを生かしたりさせ、学んだことと日常生活を関連付けるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に意欲的に取り組み、事象を「比べて」見たり、考えたりすること。 観察や、実験の結果からどんなことが言えるのか、自分の考えをまとめて表現していくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想を立てる時は、なぜそう考えたのかを問い、理由も付けられるようにする。 実験・観察においては、「比べてみる・考える」という視点を意識して発問したり指導したりして、理科学的な物の見方を育てていく。 板書において、課題→予想→実験→結果→考察の基本の流れを明確にし、論理的な思考を視覚的に補い、繰り返し指導していく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自己の運動の解決のための方法や活動を工夫するとともに考えたことを他者に伝える力を養うこと。 各種の運動にすすんで取り組み決まりを守り誰とも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで努力して運動する態度を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動する場や練習の仕方を児童自ら適切に工夫したり選択したりできるように、多様な場を準備し、練習の仕方もワークシートや掲示物にし、理解しやすくする。 運動領域それぞれの面白さを感じられるよう、チームで作戦を立てたり、練習方法を考えたりするなど、自ら意思決定する場面を多く設定する。その上で、学んだことや感じたこと、よりよくしたいことを振り返られる場も準備し、次に生かす視点をもたせていく。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ねらいとする価値に対する自分の考えをもち、交流する中で、理解を深めたり、実生活につなげたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始まりと終わりでねらいについての自分の考えが深まったり、変化したりしたことが分かるような板書の仕方にする。また、教材をたどる板書ではなく、児童の気付きを中心に黒板に記録していく。 考えたことや実生活に生かそうとする心情を読み取ることができるように、感想カードなどに記録を残す活動を行う。

総合	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で身に付けた知識や技能を用いて、自ら調べ発表すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会科で学んだ地域の特色や地域で働く人々の様子や、理科で学んだ昆虫の体や植物の様子などを、自ら調べる方法とともに様々な表現方法（新聞形式・模造紙にまとめる等）を指導する。また、それらの学びを生かして表現する場を設け、学びを広げていく。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな色や食べ物、持ち物など自分の身の回りの物を表す語句を、イラストや写真などを提示しながら、聞き取れるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽構造の関わりに気付き、表したい音楽表現をするための技能を身に付けること。 音楽表現を工夫し、どのように表すか思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見だしながら音楽を味わって聴くことができるようにすること。 すすんで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しむこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを明確にし、旋律、リズム、強弱、速度、音色などと曲想との関わりについて気付くようにする。特にリコーダーの奏法を身に付けることができるように、一人ずつ聴く機会や発表の仕方を工夫する。また、互いの声や音を常に聴き合うことを意識するようにする。 音楽を聴いて感じたこと、気付いたことを基に、互いの思いを共有しながら表現の工夫ができるようにする。また、曲や演奏のよさを伝えるためにも言語活動を大切に、児童の発言を生かした言葉や曲想を表す言葉を掲示し、音楽的語彙を増やしていく。 互いに聴き合う活動、友達と合わせる楽しさを味わえる活動を多く取り入れる。表現、鑑賞の活動をバランスよく行う。また、器楽ではスモールステップ、発展教材などを用意し、どの児童も意欲的に活動できるようにする。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 安全に配慮すること。道具を大切に扱うこと。 身近にある作品から、造形的なよさや面白さを感じ、自分の見方や感じ方を広げること。 身近な材料から造形的な活動を思いつき、すすんで手や体全体を動かし工夫を重ねること。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具の扱いについてのルールを最初に確認し、徹底する。 鑑賞の時間を題材の途中で数回取り入れる。鑑賞者が感じたことが作者に伝わるよう、形態を工夫する。 児童が主体的に選び取り、何度も試したり作り変えたりすることができるように材料を豊富に用意する。



	成果○ と 課題▼
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書にサイドラインを引かせ、ペアやグループで「なぜその箇所に線を引いたのか」について、教科書の言葉を根拠にして交流することができた。 ○個人の考えをまとめる時間、全体で考えを発表する時間を設定した。また、全体交流の時間には全員が意見を発表できるようにすることで、互いの感じたことや考え方を理解し、他者の感じ方などのよさに気付くことができた。 ▼漢字の定着には差が見受けられる。ミニテストを実施するなどスモールステップで着実な力を身に付けることができるようにしていきたい。また、家庭とも連携し、家庭での漢字の復習や漢字学習ができる時間を確保できるようにする。
社	<ul style="list-style-type: none"> ○総合の学習とつなげて学習を進めたため、町探検をして見てきた実際の様子も思い浮かべながら考える様子が見られた。タブレットでの調べる時間を確保することで、昔の様子や、どうして人口が減ったのかの根拠を調べるなど積極的に自ら解決する姿につながった。まとめもタブレットのソフトを用いて行

会	<p>い、班の中での発表や全体発表もお互いの考えをスムーズに伝え合うことができていた。</p> <p>▼社会科見学の実施が難しい場合も想定し、動画資料やオンライン見学などできることを今後も考え実行していく必要がある。</p>
算数	<p>○「課題は何か、求めているものは何か」を丁寧に確認しながら繰り返し指導することで、求めているものを意識して立式する児童が増えてきた。</p> <p>○自分の考えを、分かりやすくまとめられているノートを提示していくなどの指導を行ったことで、友達の考えから自分の意見を深めることができた。主体的にノートに自分の考えを書いたり、発表したりする姿が見られた。</p> <p>▼順序立てて説明ができるようになってきたが、児童同士の発表で考えを深めることが難しかった。同じ考えでも、複数の児童に発表させるなどの工夫により、考えを深めていくようにしたい。</p>
理科	<p>○学習課題から結論に至るまでの学習の流れを実験・観察ごとに繰り返し進めた。結果と考察（結論）の違いをさらに理解させ、基本的な学習の流れを定着させることができた。</p> <p>○予想を立てる際に、なぜそう考えたのか、理由を付けて書くように継続的に指導してきた。そのため、前時の学習から比べて予想を書くことができていた。</p> <p>▼実験の仕方の理解が不十分なまま、実験を行うことで、実験結果が周りと異なり、自信をもって結果やまとめを考えることができなかった。実験の方法について、全体で理解できるよう深める必要がある。</p>
体育	<p>○ワークシートを視覚的に見やすくしたことで、自分の学習のめあてが1時間ごとにもちやすく、振り返りの記入もより具体的に書くことが増えた。作戦タイムや見合う時間を設定することで、仲間と協力する場面が増え、関わり合って解決しようとする姿が多く見られた。</p> <p>▼ICTを活用し自分の動きを児童が確認する機会が少なかったため、より多く設定し学習を進めるようにする。</p>
道徳	<p>○授業の始まりと終わりでは、ねらいについての自分の考えが深まる児童が増えた。登場人物の心の変化が分かるような板書を工夫することで、振り返りでは自分事ととらえながら考えを深められるようになった。</p> <p>○ねらいとする価値に対する自分の考えをもち、交流する中で、理解を深めることができた。</p> <p>▼振り返りでは、自分の考えを書くことはできたが、意見の交流の場が少なかった。ペアやグループの学習形態と取り入れ、他の児童の意見を聞いたり、深めたりする時間を多くしていく。</p>
総合	<p>○自分たちの身の回りにあるものを題材にすることで、児童の学びたいことを引き出し主体的に学ぶ意欲を引き出していた。発表形式を「模造紙」「リーフレット」「タブレットのソフト」など多くのやり方を提示することで、積極的に自ら資料を集め協力しながら進めることができていた。</p> <p>▼地域の学びが多かったため、もっと地域の人材を生かしゲストティーチャーとして呼ぶことで、より児童の学びが深まるようにしていく。</p>
外国語活動	<p>○楽しく活動に参加したり、簡単な言葉やフレーズを聞き取ったり、ALTと会話を楽しんだりするなど外国語活動に慣れ親しむ児童が増えた。</p> <p>○クイズ大会では、夢中になって会話を覚えたり自信をもって参加したりする児童が増えた。</p> <p>○自分の好きな色や食べ物、持ち物など自分の身の回りの物を表す語句を伝え合うことができた。</p> <p>▼全体で声を合わせて歌ったりチャンツを楽しんだりすることができた。少しずつ、友達と簡単なセンテンスをつかい、尋ね合う活動を多くもてるようにする。</p>
音楽	<p>○ねらいを明確にし、ねらいに直結する視点(キーワード)を常に言語化して学習することで、児童の思考が焦点化された。次年度も繰り返していくことで更なる定着を目指していく。</p> <p>○音楽会の器楽合奏では、スモールステップで進めていく教材提示をすることで個々に応じた技能の向上を図ることができた。また、合奏練習を通して自分の音と相手の音を聴き合い、合わせようとする意識が高まった。</p> <p>▼リコーダーの技能指導に十分な時間と環境を設定できなかった。技能の定着や演奏を楽しむところまでは進めなかったため次年度へ引き継ぐ。課題のがんばりカードの配布で、意欲の高まりは見られた。</p> <p>▼言語活動を通して音楽的語彙を増やしたり、感じ取ったことを話し合ったりすることはできたが、まだ個人差がある。良い発言を価値付けし、各自の生活体験と関連付けたりするなど個別の発言を全体で共有し、深める時間を繰り返し設定していく。</p>

図 工	<p>○作品鑑賞を通して、友だちと関わり合いながら製作をすすめることができた。振り返りの「一言日記」をもとに、児童の作品を紹介し、相互鑑賞の時間を設けることで、自分の発想を広げることにつながった場面も見られた。</p> <p>○道具の扱いについては、児童同士が声を掛け合い、ルールを守って安全に活動できていた。</p> <p>▼発想の段階で、既存のキャラクターや世界観に引っ張られてしまいがちな場面が多くみられた。偶然見つけた形から色々な見方をするなど、自分から出てきた発想を広げていく授業展開を多くする。</p>
--------	---